平成２７年度　北杜市行政改革推進委員会

会　議　録

開催日時：平成２７年８月２６日（水）　午前１０時

開催場所：北杜市役所北館３階　大会議室

会議次第：１　開　会
２　会長あいさつ
３　市長あいさつ
４　議　事
（１）　第３次北杜市行財政改革大綱について（資料１）
（２）　事務事業外部評価について（資料２）
（３）　その他
５　閉　会

会議資料：会議次第
資料１　第３次北杜市行財政改革大綱について
資料２　事務事業外部評価について
別冊資料１　第３次行財政改革アクションプラン　各所管課別進捗管理シート

出席委員：小川昭二、齊藤　満、佐々木拓次、小林保正、村田俊也、清水　裕、小林昭治、堀内美恵子、草野香壽恵

欠席委員：藤原真史

北 杜 市：白倉市長、大芝副市長、藤森教育長、伊藤総務部長、平井市民部長、茅野福祉部長、名取生活環境部長、田中産業観光部長、神宮司建設部長、横森会計管理者、浅川教育部長、坂本議会事務局長、小石農業委員会事務局長、五味明野総合支所長、中田須玉総合支所長、植松高根総合支所長、武井長坂総合支所長、浅川大泉総合支所長、高橋小淵沢総合支所長、赤羽白州総合支所長、秋山武川総合支所長、濵井産業観光部次長、植村財政課長、水石政策秘書課政策調整担当リーダー

欠　　席：長坂監査委員事務局長

事 務 局：菊原企画部長、小松企画課長、輿水企画課行革担当リーダー、原企画課行革担当、向井企画課行革担当

会　議

１．開　会

（事務局　菊原企画部長）

会を始めるにあたりまして、全員で挨拶を交わしたいと思います。御起立をお願いします。相互に礼。御着席ください。改めまして、おはようございます。本日は平成２７年度第１回北杜市行政改革推進委員会を開催しましたところ、委員の皆様方におかれましては、それぞれ大変お忙しい中、また、猛暑の後、急激に気温が下がり、陽気も不振の中、御出席くださいまして誠にありがとうございます。申し遅れましたが、私、本日の司会進行を努めさせていただきます、企画部長の菊原と申します。よろしくお願いいたします。それでは、式次第に則りまして会を進めたいと思います。まず始めに、当委員会の会長でございます小川会長から挨拶をいただきたいと思います。

２．会長あいさつ

（小川会長）

改めて、おはようございます。本日は、北杜市行政改革推進委員会に御出席いただきまして、ありがとうございます。また、白倉市長さんには幹部職員共々御多忙の中、御出席いただきまして、感謝申し上げます。年度当初に、事務局からこの委員会の運営について相談がございました。その際、私は、今年度は第３次行財政改革大綱の中間年にあたりますので、回数よりもポイントを得て、タイミングの良い時に開催しましょうという話をさせていただいたのですが、ちょうど新年度から数カ月が経ちまして、世間一般では夏休みの時期も終わり、これから行政側もエンジン全開の時期を迎えるというこの時期に開催できましたことを、非常にタイミング的には良い時期なのではないかと思います。最近のテレビ、報道等を見まして思うことは、やはり北杜市の話題、ニュースが非常に多く取り上げられるというようなことでございます。いろいろな角度から取り上げられるのですが、私が注目したいところは、ただ単に「景観が良い」「観光地」というニュースよりも、住民人々が作った話題が非常に多いのではないかと感じております。企業進出やイベント、あるいは小中学生の活動、文化芸術活動、そういった人々が織り成す活動が多く見られるということが、私は非常に注目すべき点だと思います。北杜市が発足して１０年余あまりが経つわけですが、基礎固めが徐々に出来て、だんだんそこから創造の芽が出てきているのではないかと感じるのは、私ひとりではないような気がいたします。この変革、改革を経て、創造に向かうこの過程というのは、まさに我田引水的に言えば、行政改革の歩みと同じだというふうに思います。そういう意味で、こうして、行革、行革と言い続けることが、

少しずつ市民にも浸透してきているのかなと、私、手前勝手に思っているところでございます。それもこれも、今日のように市長さんをはじめ、市の皆様方が折々に触れて、この委員会を意識していただき、委員の意見に耳を傾けていただいている、そのことが表れていると思うわけでございます。今日のメインのテーマは、第３次行財政改革大綱についてですが、もう一つの議題として、事務事業外部評価が議題として挙げられております。事務局から協力の依頼をされた際に、私個人的にですけども、「ぜひやりましょうよ、ぜひやらせてください」と言いました。この委員会を活用していただけるということで、喜ばしいことだというふうに思ったわけでございます。私共も今日の説明を聞きまして、事業の内容をよく理解した上で、お役に立ちたいと思っております。それでは、今日もこの委員会が活発な場になりますことを念じまして、私の挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

（事務局　菊原企画部長）

引き続きまして、白倉市長から御挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

３．市長あいさつ

（白倉市長）

皆さん、改めましておはようございます。今日は大変お忙しいところにお願いをいたしまして、行政改革推進委員会が開催できますことを心から感謝申し上げたいと思います。任期は２年でございますが、いろいろな意味で御指導、御指摘をいただければ、大変ありがたく思います。今、会長さんからも挨拶があったわけでございますけれども、合併した北杜市も１１年目を迎えているわけでございますが、月並みな言葉でありますが、しっかりとした礎を築いて、力みなぎる北杜市を作っていきたいと思いますので、なお一層の御指導を賜ればと思っているところであります。平成１８年３月に第１次行政改革大綱とその実施計画であるアクションプランを策定して、平成２２年度までの５年間の取り組みを実施し、大きな成果を上げてきたところでございます。また、平成２２年度に基本目標を引き継ぐ第２次行政改革大綱を策定して、平成２３年度から平成２５年度までの３年間で更なる行財政改革に取り組み、８６項目のうち５９項目を達成したところでございます。一言で言えば、課題も多いけれども、夢も多い北杜市であります。私も合併した北杜市の１丁目１番地は財政の健全化と話をしておったところですが、おかげさまで財政の健全化は、国からも県からも評価をいただけるような実績を残しているところでもあります。でも、超少子高齢化へのスタンスが１丁目２番地であるとするならば、これは大きな課題であり、難題でもあります。言うまでもなく、国も地方創生が国政・財政の大きな柱になってきたわけでありますけれども、北杜市も国の流れと一緒になり、全力でこの問題に取り組んでいきたいと思います。私が偉そうに言うわけではありませんが、やはりこの地方創

生の最大の課題は、人口減少にどう歯止めをかけるか、そして地方の経営をどういうふうに克服していくか、という２大柱であると思います。そんな中で、行財政改革も併せて取り組みながら、しっかりとした故郷「北杜市」の礎を築いていきたいと思いますので、なお一層、委員の皆様の御指導、御指摘等を賜ればありがたく思います。よろしくお願いいたします。

（事務局　菊原企画部長）
　それでは、議事に入る前に、委員の変更がありましたのでお知らせをしたいと思います。中日本高速道路株式会社八王子支社甲府保全・サービスセンター所長におかれましては、前委員の東久保忠委員から佐々木拓次委員に変更になりましたので、御紹介させていただきます。

（佐々木委員）
　ただいま御紹介いただきました、NEXCO 中日本甲府保全・サービスセンター所長の佐々木と申します。４月１日付けで参りました。どうぞよろしくお願いいたします。

（事務局　菊原企画部長）
　なお、山梨大学生命環境学部准教授であります、藤原真史委員は本日公務のため欠席と連絡をいただいております。
　それでは、議事に移りたいと思います。北杜市行政改革推進委員会条例第６条の規定に基づき、会長に議事をお願いしたいと思います。小川会長、よろしくお願いいたします。

６　議　事
（小川会長）
　それでは議事に先立ちまして、公開の可否をお諮りいたします。北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱第３条の規定により、本日の会議は公開してよろしいでしょうか。

〈異議なし〉

（小川会長）
　それでは本日の会議は公開といたしますので、傍聴人がおいでの際には会場に入室を認めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。続きまして、議事録を作成いたしますので、議事録署名委員２名を指名させていただきます。議事録署名委員は、委員の方々から指名します。名簿の順番で佐々木拓次委員と清水裕委員を指名します。どうぞよろしくお願いをいたします。それでは次第に則りまして、議事の（１）「第３次北杜市行財政改革大綱について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

（事務局　小松企画課長）
資料１に基づき、（１）【平成２６年度アクションプラン取組結果一覧】について説明。
（植村財政課長）
資料１に基づき、（２）【「財政の中・長期見通し」のローリング】について説明。

（小川会長）
ありがとうございました。事務局からの説明は以上でよろしいでしょうか。事務局からの説明がありました。ここから先は、委員の皆様方から御意見や指摘事項を頂戴したいと思います。事務局からの説明が通してありましたので、意見についても全般で「ここの項目のこういうことについて」とおっしゃっていただければ、特に制限なく発言していただきたいと思います。どうぞ気がついた点を発言してください。

（清水委員）
質問というか意見ということで、大きく分けて２点お話ししたいと思います。資料１の達成率の件ですが、先ほど説明がありましたとおり、１００％・７５％・５０％という達成率になるということですが、ここで言うのは１つの例としてあえて示しますので、所管の課がどうこうという話ではありませんが、１ページ目の一番下にある「補助金等評価検討会の創設」は達成率７５％になっており、取組実績には「検討を重ねた」とあります。続いて、２ページ目の「放課後児童クラブ利用料の見直し」については、達成率５０％ですが、ここについても「検討を重ねた」とあります。ということで、一方は７５％の進捗ということは、企画課の方は近いうちに完了だけれども、子育て支援課は継続中でまだまだ時間がかかるということで、この辺のところの整合性はいかがなものかなというところが１つ疑問に思いました。また、３ページ「災害時要援護者支援制度の推進」では人数５００人に対し２６２人、約半分の人が集まっているのですが７５％、一方で「通訳ボランティア制度の推進」では１９人に対し１７人で７５％であり、同じ７５％でありながら、一方は８０％超であり、一方は半分で７５％の進捗率であります。今、私は分かりやすいところだけを申し上げましたが、この辺の達成率の検証というのは行われているのかというところが、私が見たところの疑問でございます。もう１つは、先ほど財政課長から財政の見通しについて説明していただいたのですが、細かい部分について委員が質問すべきかどうかという前置きも必要なのですが、７ページの中にあります平成２８年度の普通建設事業費については６２億６千８百万円になっており、平成２７年度が３２億円というところから、ほぼ倍の３０億円が一気にここで建設費が増えているのですが、何かここで特殊要因があるのかという、そもそもの疑問の点がございます。以上、質問ということでお答えいただければと思います。

（事務局　小松企画課長）

達成度の評価の基準の整合性が取れていないのではないかという御質問でしたが、今回の達成度の考え方は、資料の中に示してありますが、実は計画自体は３年間の計画ということで、最終的には３年間をまとめたもので達成率を出してまいります。ただ、年度ごとに個別のシートを別冊でお渡ししているわけですが、その中では前期・中期・後期という中で、年間を３期に分けて取組目標を立て、それに対して実績を出し、評価をしております。中には、まとめとすれば言葉が同じになっておりますけれども、例えば、中期の目標が達成されていなかったという状況の中で、個別のシートの中で最終的には同じ評価になっているという状況があるということで御理解をいただきたいと思います。評価の仕方なのですが、確かに委員の御指摘のように、私も見る中で、なかなかちょっと精度とすればもう少し用足りないのかなというところは感じております。そういった中で、もう少しこの評価の考え方については、意見を頂く中で考えてみたいといった思いはありますので、今後の課題とさせていただきたいと思います。

（植村財政課長）

普通建設事業費が２７年度と比べて２８年度が大きいという理由ですが、一番大きいものとして小淵沢駅舎の改築の関係があります。当初作成時から年度がずれたところもありまして、２８年度にシフトしているのですが、大きいところがここになります。また、子育て支援住宅の武川分も２８年度に入ってくるということで、ここが大きく出てきております。他にもたくさん事業は出てくると思うのですが、とりあえず分かっている大きなものを入れさせていただいております。

（清水委員）

どうもありがとうございました。予算の方もよく理解できました。達成率については、私は数字を直していただきたいということではなく、ぜひその辺の進捗率については同じ目線の中で議論をしていただければと思います。最後に１点、２ページ「保育料収納率の向上」から下の部分で全体的に言えることなのですが、ここで言えば「収納課で徴収業務を一元化する体制の検討が必要である」と書いてあるのですが、ここの文言の下に書いてある収納率アップについては横断的に、効率的に徴収率を上げられるよう庁内でチームを作るという言い方が良いのかは分かりませんが、横断的に情報の共有をしながら収納率を上げていく方法を考えていかなければならないのではないかと思いました。

（小川会長）

ありがとうございました。横断的な対応を参考にしていただければと思います。

（小林保委員）

耳が痛い話かもしれませんが、４つございます。今の清水委員のお話の延長になりますが、２ページの税金等の取り立てがうまくいっていない、または納めができていないということで、ここがかなりまだパーセンテージが残っているなと思っているのですが、そういった中で、清水委員のお話はチームで横断的にそういったところを出来るだけ漏れがないようにやっていくというお話だと思うのですが、私の場合は、各項目について過去に分析されていると思うのですが、なぜ保険料を納めないのかという分析・検証をされたらどうでしょうかと思います。なぜならば、７ページの資料で５年後には７億円の目標以下の額になってしまうということにびっくりしました。企業でいえば、ブレーク・イーブンを切ってしまうということです。そうすれば、５年後には緊縮財政をやらなければならないという気持ちになります。収入を増やすか、費用を削るかのどちらかになります。先ほど、地方税が減ったなら交付税が増えるというお話がありましたが、我々は収入がなくなればアウトです。そういった中で、取り立てという話はきつい話かもしれませんが、頂くものは頂くということできっちりやらないと、５年後はブレーク・イーブンを切ってしまうということです。そういう気持ちでやっていただけるならば、分析は１件１件出来るのではないかと思います。新しく人が変わるので、５年後まで分かりませんよということもあるかもしれませんが、例えば、下水道等は人数が決まっていると思うので、分析は可能であると思います。今日は２６日ですが、我々は３１日ぎりぎりまでやります。どうすれば売り上げが伸ばせるのか、きっちり上げる必要がありますから。たまたま私の会社は、中国の為替が落ちてしまいまして、レートはひっくり返っています。ちょっと前までは１２５円でいいねとなっていましたが、今はもう１１８円で全くで、売り上げもがっくり落ちるわけです。そうなると、収益が下がるのは当たり前になります。そういったところをしっかりやられた方が良いのではないかと思うから故に、このようなことを言っています。２つ目に、３ページ「ふるさと納税」ですが、これが入ると北杜市は少しは潤うのですか。もし潤うのであれば、こういった取り組みというのは、件数ではなく金額にした方が良いのではないかと思いました。このようなものは、もっと金額で載せたらどうかと思います。我々の中では常に数字です。やれるか、やれないか、数字で言えと必ず言われますから、そのようなことを入れていただけたらと思います。３つ目に、４ページ「病院、診療所の経営改善」ですが、病院は北杜市の方々が来ていただくとしても、我々が老後に医療が大丈夫だと思えるように、病院・診療所の経営がしっかりしてあってほしいと思います。その中で、甲陽病院の目標数字が１００．１％に対して９７．５％となっていますが、これは経営がうまくいっていないということですか。それをお聞きしたいと思います。病院の経営がうまくいっていないという話が聞こえてきます。そういった中で、甲陽病院はどうなのかと気になります。４つ目に、前回もお話ししましたが、５ページ「人材育成計画の推進」とありますが、これについてお話しいただきたいと思っておりますが、「研修へ行ったから、その人が伸びているのか」と思います。「管理職登用試験の導入」と絡んでくるかと思いますが、私共の中では新入社員研修でチェックが入りますし、中間管理職でチェッ

クが入りますし、マネージメント層に入るためには試験があります。北杜市では、こういったマスタープランをお持ちでしょうか。そこをお聞きしたいと思います。その中で、やはり取り組みをしていただいた方が人材育成にはよろしいのではないかと思うからです。今、企業は人並みという言葉が非常に言われています。やはり、皆さんの能力が上がれば、こういった数字も上がるし、サービスの提供も出来るのではないかという思いがあり、日々研鑽をし、一生の中で目標を作って、そこでミットできるようにするという体系があるのではないかと、そのようなことがあるのであればお聞かせ願いたいと思います。以上、言いたいことを言ってしまいましたが、私の意見とさせていただきます。

（植村財政課長）

収納に関する質問にお答えする前に、私の説明で言葉が足らずに誤解を招いているところがございましたので、先に補足説明をさせていただきたいと思います。税が下がれば交付税が上がるという説明をさせていただきましたが、例えば、税の収納を上げる努力を怠って、税収入が下がった分を交付税で補填してくれるというものではありません。制度的に、景気の変動等の中で標準的に取るべき理論値での税収入が上下することがあり、このように標準的な税収入が下がる場合は交付税で補填するということです。決して努力しなくとも補填されるということではございませんので、そこのところの御理解をお願いいたします。

（伊藤総務部長）

収納に関する対応への質問ですが、総務部に収納課を設置し、日々収納率の向上に努めているところでございます。なお、滞納している方に対して、納税相談に応じる等を繰り返しながら、対応していくところでございますけれども、納めるべき方は当然納めていただくという考えの下、現年・過年を通じて収納率向上に努めております。また、収納課では国民健康保険料等、市民税関係以外の税・料も対応しておりまして、横の連携を取りながら収納に努めているところであります。次に、ふるさと納税に関する質問ですが、平成２６年度の金額で申し上げますと１，３４６万５千円の応援寄附金を頂いたところでございます。当然、この寄附金を財源としまして、教育分野・環境分野等に有効に使わせていただいているということでございまして、本市におきましては、貴重な御支援をいただいていると理解しているところです。次に人材育成についてですが、年度を通しまして山梨県市町村職員研修所で開催しております階層別の研修に参加してもらうとともに、市独自で人材育成、人事評価、接遇やメンタルヘルスについての研修を実施して、日々の向上を図りながら、人材育成を行っているところでございます。管理職登用試験等の導入についての御意見でございますけれども、今後、人事評価の制度化の中で位置付け、検討してまいりたいと考えております。

（平井市民部長）
　甲陽病院の経常収支比率についてですが、平成２８年度までに１００．１％にするという目標ですが、何はともあれ病院につきましては、収支を改善するためにはマンパワーが必要になります。特に、この地域は高齢者が多い地域ですので、外来にしても入院にしても常勤の内科医が居ないと、収支改善がなかなかうまくいきません。甲陽病院につきましては、平成２３年度に内科医が退職され、しばらく内科医不在の中で、非常勤の内科医が外来を診ていたという状況でした。そのため、入院等を受け入れることが出来ないという状況が続いておりましたが、平成２６年度に常勤の内科医が１名確保できましたので、これからは目標１００．１％に向けて収支も改善していくものと考えております。

（小林保委員）
　病院の件ですが、やはり甲陽病院の収支状況が良くないということですか。今後は、内科の先生が来るから患者も増え、収入も増えるだろうということですか。そうすると、今の状況は赤字でしょうか、黒字でしょうか。

（平井市民部長）
　今の状況は赤字でございます。

（小林保委員）
　赤字の補填は市が行うということですか。

（平井市民部長）
　固定資産の減価償却費が含まれておりますので、実質的に赤字というわけではございません。しかし、決算上は赤字ということです。それに対し、市が補填しているかというと、そうではございません。

（小林保委員）
　その赤字はどうされるのですか。内科医が来るので赤字は縮小するということでしたが、赤字はどこが補填するのですか。

（平井市民部長）
　企業会計において減価償却費が大きいことから赤字になっているわけであります。一般会計では歳出に減価償却費が入っておらず、純粋にかかった費用と収入で見ておりますので、甲陽病院の収支を一般会計に置き換えると赤字にはなっておりません。

（小林保委員）

単純に、赤字を市が補填するならば、市の会計がマイナスになってしまうということですよね。そうなると、経営を良くすれば、市の補填が必要ではなくなるということではないのでしょうか。そのために、やはり何か対策を打たないと、普通の会社ですと、減価償却費は入っておりますので、赤字は赤字であり、お金がないということでお手上げになってしまいます。

（平井市民部長）

結局、減価償却費は建物の分ですから、建物を建て替える際には、その資金がなければなりません。そう考えますと、現在赤字のものがそのまま続いていくと、施設等を建設する際には、その分を補填しなければならないということになってくると思います。従いまして、これからは医師の確保を進める中で、累積赤字を縮小していきたいと考えております。

（佐々木委員）

中・長期の財政の見通しの資料を拝見して感じたことなのですが、私の会社は高速道路の関連会社でございます。今話題になっておりますメンテナンスというところですが、インフラのメンテナンスということで我々も点検や保守を行っております。私共は高速道路に特化しておりますが、行政においては水道や建物を保有されていると思いますので、この表のどの費目に入ってくるか分かりませんが、年数が経てば点検もしなくてはなりませんし、補修費用も嵩んでくると思います。そういった支出が増えることになるのかもしれませんので、しっかり見込んでおいた上で、支出や収入を調整していった方が良いのではないでしょうか。どうしても造る方に力を入れがちですが、やはりメンテナンスにかかる費用等を見越していただき、しっかり財政を計画していただけたらと思います。

（小林昭委員）

先ほどの佐々木委員と同じ意見になりますが、新聞紙上でも公共施設等の補修について報道がされております。公共施設の修繕について、アクションプランの中で見ることは出来ないが、あらゆる施設の老朽化が進行する中で、その全てに対応することはなかなか出来ないことであると思います。しかし、利用者の安全安心を考える上で非常に大事なことであります。今後、公共施設の補修計画、維持財政計画等がもしあるのならばお示しいただければと思います。

（小松企画課長）

公共施設等につきましては、施設の老朽化に伴い、大規模修繕、更新していくものと思いますが、本市の場合は合併以来、公共施設は現状維持の状況がほとんどでございます。一部は統合等を行っている状況もございますが、全体の状況とすれば、これからしっかり

と計画を立てた中で、事業を進めていかなければならない状況であります。そういった中で、現在、国から上下水道等のインフラも含めた全ての公共施設において、今後の公共施設のあり方についての計画策定を、地方自治体は求められています。本市の計画としては、２７～２８年度の２年間をかけ公共施設等総合管理計画を策定することとしており、その計画に基づき、将来的な施設の統廃合、解体・廃止も含め検討を進めていくこととなりますが、いずれこの計画の方向性がある程度まとまったところで、この中・長期の財政見通しに反映されるのではないかと考えております。先ほどの説明の中で、まだ公共施設については予算を見込んでいないと財政課長から説明がありましたが、その経過というのは、現在まさに計画を策定中でありまして、この計画を策定した後に財政の見通しにも計上していくことになっております。

（草野委員）

前回の委員会で、数字化して、見える化するようにということで資料が作られていますが、私は違った視点でお話したいと思います。このアクションプランの進捗管理シートの中で「次年度以降へ向けて取り組みます」というところについては、こちらから見ると少しスピードが遅いように思います。私たちから見れば、もっとやることがあって、部内の連携だけではなく、全庁的に連携すればもっとできると思うところが多々ありましたので、その辺を提案というか、そういったことも出来るかどうかも踏まえて、質問したいと思います。まず、４８ページ「災害時要援護者支援制度の推進」ですが、今後、避難行動支援者に移行するとのことです。今まで民生委員が制度に関わってきましたが、介護保険の申請が出て、ケア会議を行い、その会議で対象者がどんなサービスを受けるのか本人や家族を含めて話し合いを持つ際に、ケアマネージャーが「こういう方法があるから避難行動支援者の台帳に掲載しても良いですか」と声かけをするようにすれば、民生委員が携わるよりも、対象者や家族にも分かりやすいと思いました。そういったことが出来るのかということが１つと、７６ページ「学びの杜タレントバンク制度の推進」について、「まなびの杜」というタレント名簿が掲載されたパンフレットが回覧されています。人材的に見れば１００％達成していますが、それを活用しなければ意味がないと思います。教育委員会だけではなく、周知する。例えば、高齢者のコミュニティカフェや公民館カフェ等、認知症や寝たきりにならないようにするための場がありますが、公民館で歌を唄ったり、手作業をするだけではなく、タレントバンクに登録されている方が６０人程おりますので、せっかくこのように良いマイスターの方がいるわけですから、そういった方をもっと活用して、学ぶことをしたらどうかと思います。せっかく人材を確保しているのですから、それを活用してほしいと思います。「図っていきます」等ではなく、２８年度はそういったことに積極的に取り組んでいく中で、もっと見える化というかシートに詳しく記載してほしいと思います。それは、生涯学習課だけではなく、市役所内で連携を取れば出来ることだと思います。また、私は環境学習で学校へ行っておりますが、職員が学習プログラムを活かそうと

思い、校長会や児童館や障害者施設等に直接行って提案をしています。達成率が１００％だからと安心せずに、「市民との共同による事業の展開と情報の共有化」と謳うだけではなく、実践することはたくさんあると思います。市民の立場から見ると、職員は自分の仕事が忙しくて大変なのかもしれませんが、そういった面で出来ることはたくさんありますので、その辺をもう少し前に進めてほしいと思います。

（平井市民部長）
介護保険のケアマネージャーを活用して、避難行動支援者の登録をしていったらどうかということですが、登録にあたっては、ケアマネージャーにそのような機会を捉えて、推進をお願いするということで行っております。ただ、その辺につきましては、再度徹底して行っていきたいと考えております。

（浅川教育部長）
タレントバンクの活用ということですが、「まなびの杜」という情報誌を年２回発行しております。こちらで、タレントバンクの登録者の皆さんを募集させていただいているということになります。市民の皆様方には情報誌で、また、ホームページ等を活用しての紹介、さらに学校等への紹介という中で活用を促しているところです。いずれにしましても、市民の方々がたくさん講座を開いていますので、こういった方々を活用していただかないと、タレントバンクに登録していてもあまり意味がないということにもなりますので、表記の仕方は後日改めるといたしまして、なるべくタレントバンクを利用していただけるような方策は今後もとっていきたいと考えております。また、タレントバンクに登録した方が自主企画講座を開催する場合、市では広報紙での周知や公共施設の使用料の免除等、市としての支援を行う中で、市民との協働による生涯学習の推進を図っている状況です。

（村田委員）
全体の取組状況を確認させていただいて、達成率８７％ということで、皆さん大変努力された結果であろうと思いますし、敬意を表したいと思います。しかも、２５％以下の項目が１つもない、ほとんどが目標を達成しているということは、大変な努力だったろうと思います。そんな中でお願いがあるのですが、資料１と別冊資料１について、項目の順番が合っておりません。資料１を見ながら別冊資料１を見ても、どこにあるのかが全く分からない状況です。別冊資料１が何らかの理由で課別になっていると思いますので、出来れば、資料１の一番右端で結構ですので、進捗管理シートの何ページになるか入れていただけると分かりやすいと思います。それではいくつかお聞きしますが、アクションプラン進捗管理シートでお話をさせていただきます。まず、６ページ「総人件費の抑制」について、共済費の引き上げがなかったとした場合、削減率がもう少し高くなったのではないかと思うのですが、その辺の数字が分かるのであれば教えてください。そうなると、実績では５

０％ですが、実際には７５％の達成だと考えても良いのかなと思います。逆に、既に達成した項目がいくつかあると思います。これは努力の賜物だと思うのですが、目標設定自体がどうだったのかと思います。目標を達成してしまったら今後どうするか聞きたいものがありまして、あくまで例ですが、１３ページ「人材育成計画の推進」ということで、目標が職員研修参加人数で年間延べ３５０人としておりますが、当該年度の実績は１，０８９人という数字が出ております。これだけ見ると、目標の３倍頑張ったということになります。それならば、３５０人という数字を来年以降はもう少し引き上げても良いのではないかという感じがしますが、いかがでしょうか。次に、１４ページ「職員提案制度の推進」ですが、年間２件の職員提案が目標ということで、２件の提案が採用されましたので、目標達成で良いと思うのですが、実は前回もお話しましたが、２件という目標はちょっと低くはないでしょうかという気がしないでもないです。応募が５件ということですが、例えば１００人職員がいれば、２０人に１人が応募すればいいという状況は、もう少し職員のモチベーションを上げるようなかたちで当初の目標を設定していくことも必要かなという気がいたしました。それから、２１ページ「滞納処分の実施」ですが、平成２６年度目標が３００件のところを、大変努力していただいた結果だと思いますが、年間で４５３件という１．５倍の数字が出ております。２６年度に出来たから、２７年度も出来るとは限りませんが、２７年度の目標が３１０件、２８年度の目標が３２０件であれば、ある意味、余裕で達成できてしまうという感じがするのですが、今回の目標についてどうお考えなのか教えていただきたいと思います。次に、２３ページ「団体への運営補助金の削減」ですが、２６年度に４．２％を削減したということですが、これを見ますと２８年度までに３．０％を削減するということですので、目標が達成できてしまいました。これについては、どうお考えなのか、達成してしまったのでもうおしまいというかたちにするのか、もう一段上を行っていくのか、考えがあれば教えていただきたいと思います。次は全く違う話になりますが、３６ページ「市有財産の有効活用、処分」について、先ほど企画課長から答弁いただきましたが、施設の総合管理計画、再配置計画との整合性をどう図っていくかということをお伺いしたいと思います。次に、７１ページ「市営住宅管理等の民間活用」について、先進事例等を参考に検討を進めているということですが、検討を進めた結果どのような結果になったのか、お話出来る状態であるのなら教えていただきたいと思います。最後に、「財政の中・長期見通し」のローリングについてですが、財政見通しの作り方自体が厳密なものではなく、全体的な方向感を皆さんに知っていただければということで作られているというお話でした。レベル感として、どの程度細かく作るかという話の中で、２８年度以降はそれほど数字の動きはないですが、ここ最近、人口減少の問題が非常にクローズアップされてきまして、人口ビジョンも作られていらっしゃると思います。おそらく北杜市の場合はかなり人口が減少するだろうと私は思うのですが、人口減の影響をもう少しラフでも良いから推計に入れていったらどうかという感じがします。例えば、１つは地方税ですが、高齢化が進んで人口が減ると地方税は減ってくるわけで、もし減ってくると

いうことが想定されるのであれば、ある程度の数字は入れていったらどうかと思いました。逆に、おそらく扶助費がかなり上がってくると思われますので、２８年度以降の数字がずっと同じになっていますが、そういったことを少し入れておくのが良いのではないかと思いました。また、もう少し先になるかもしれませんが、先ほどお話がありました施設の総合管理計画を通じて圧縮した数字が出てくれば、そういう数字を入れていただくことで、市民の方に「実は非常に厳しい」ということを感じていただくことが出来ると思います。厳密にまでとは言いませんが、もう少し方向性が分かるような感じで進められたらどうかと、そんな感じがいたしました。

（伊藤総務部長）

共済費の引き上げがなかった場合どうだったかという御質問ですが、職員数については定員適正化計画に基づき、計画どおりに削減が図られているという状況で、純粋に人件費だけの増減を数値に表すことは非常に難しい状況でございます。毎年の共済費につきましては、金額の増減が激しい状況でございまして、平成２６年度については平成２５年度対比で０．７％削減の目標を設定する中で人件費の抑制を図ったところですが、今回は、共済費の負担率の引き上げが主な原因で、努力はしているわけでありますが、目標達成には至りませんでした。次に、人材育成計画の推進について、実績の数字に合わせて目標数値を上げても良いのではないかということですが、例年、職員の人材育成には力を入れてございますので、このような数字になってございます。第４次の計画を作る際には、この目標数値については検討していきたいと考えております。次に、職員提案の件について、採用件数が２件と少ないのではないかということですが、少ないながらも、職員が日頃の業務の中から感じる中で創意工夫した提案が出てきていると感じておりますので、職員自らの意識改革も含めて市政の参画意識の高揚を図る中で今後も職員提案を募集したいと思っております。また、採用件数につきましても、２件以上に目標設定していきたいと考えております。次に、滞納処分の実施について、収納率の向上を図るために、職員が一丸となりまして税・料の徴収に精進しております。おかげさまで目標設定を上回る年間件数を出してございますので、今後も公正の立場で更なる収納率の向上を図ってまいりたいと考えております。

（小松企画課長）

補助金支出の適正化について、先ほど御質問がありました。２６年度の実績で目標を上回っているということで、当初の目標以上に目標の再設定というお話でありますが、類似で２４ページ「補助金等評価検討会の創設」で、補助金のあり方についてゼロベースで見直すために評価基準を統一し、全庁的に同じ考えの基に補助金の支出について考えていくといったことが、アクションプランの中で計画されております。現実的にはまだ方向性は定まっておりませんが、来年度中にはしっかりこの方向性を定めるという取り組みと並行

して行っている過程がございます。現在のところ、パーセンテージで見ると目標を上回っているわけですが、この方向を見定める中でということで現在考えております。次に、３６ページ「市有財産の有効活用、処分」について、先ほど公共施設等総合管理計画を策定しているというお話をさせていただきました。その中で、市の所有する資産について台帳がしっかり整備されていないという状況がありまして、管理計画策定事業と並行して台帳の整備も現在行っている段階であります。当然、台帳等との整合性を図る中で、売却可能な財産については積極的に進めていくという考え方で今後対応していきたいと思います。

（神宮司建設部長）

７１ページ「市営住宅管理等の民間活用」について、市営住宅につきましては入退去が発生します。退去の際に、経年劣化によるものなのか、本人が破損させてしまったものかという判断が難しく、非常にクレームが多いところでございます。また、料金徴収業務につきましては、前年の収入によって割増賃料が発生してくるということもありまして、委託する方たちに、入居者の前年の収入が分かってしまう等の課題もありまして、検討はしているのですが、非常に難しい状況です。水道料や下水道料のように使用した量で使用料を徴収するということならば良いのですが、住宅使用料については、業務が多岐にわたっており非常に難しいということで、現在検討させていただいております。

（植村財政課長）

委員から御提案のありました、次に向けての財政の見通しのローリングについてですが、次回のローリングに際しまして反映できるところについては十分に検討させていただきたいと考えております。ただし、先ほど申し上げましたとおり、扶助費について数字を固定しているのは、扶助費のようにこれだけかかるとこれだけ補助金が出ますというものについては、特殊な要因があるかどうかは別にしまして、やはり制度的にも世の中全体が増えるということについては、補助制度や交付税制度である程度賄えるような、持続可能な財政運営が出来るような地方財政制度になっておりますので、このように数字を固定させていただいているという趣旨でございます。また、人口減少や施設の維持管理についてですが、非常に大きな課題でございます。まさに、長期または長々期を見通す上では、そのようなシミュレーションは非常に重要になるのではないかと思っております。ここで言いますと、中・長期と言いながら、言わば中期の見通しになりまして、人口につきましては、現在策定中の総合戦略、人口ビジョンにおいて、少なくともここに書いてある年度につきましてはあらゆる少子化対策または人口減少対策を講じた上で、何とか維持していきたいということも考えているところでございます。財政的なところで言いますと、人口の増減を見込むことは難しいところであり、今回のローリングに際して人口減少を見込むことは難しいかもしれませんが、住民への周知というところで「人口が減れば、財政も苦しくなってくる」ということをアピールしていき、財政健全化について理解を求めていくことは

重要であると認識しておりますので、よろしくお願いいたします。

（村田委員）
　ありがとうございました。皆さんが一生懸命やっていただいているということが良く分かりました。財政のローリングについて、今年北杜市では総合戦略を作っていらっしゃって、総合計画を来年作られると思うのですが、おそらくその中に財政の見通しの部分が載ってくる可能性があると思います。もし載ってくる場合は、そのあたりの整合性をとっておいた方が良いのではないかと思いました。

（小林昭委員）
　補助金の件でお伺いしたいのですが、１ページ「市単独補助金の削減」「団体への運営補助金の削減」の今後の課題について、「補助金を交付することの効果、また削減に伴う効果の検証が依然として不十分である」とありますが、おそらく当局ではどの補助金、どの団体がどうなのかということは検討課題にあるかと思います。それをどの段階までに廃止するか、毎年シーリングをかけていくか、市としてその補助金が本当に必要か必要でないのか、見定める必要があると思います。今後、具体的にどの団体についての補助金をどこまで減額していくのか、また、継続していくのかということを見据えた中で、次回、御提示いただけるようであれば御提示いただきたいと思います。

（小松企画課長）
　補助金のあり方については、アクションプランの中でも、ゼロベースで全庁を上げて検討することになっております。現在、シーリングをかけて、毎年全ての事業に対して対前年比何パーセント削減するということで進めていますが、それぞれの事業の性質が異なりますので、一律にシーリングを行うこと自体がどうなのかということが当然検討課題になろうかと思います。そういった中で、ゼロベースで見直すということをアクションプランに掲げておりますので、２８年度までには全庁的な会議を立ち上げ、検討する中で、改めて方向性を示していきたいと思います。

（小林昭委員）
　ゼロベースは、どこまで本当に可能かということがあるのであれば、ゼロベースであるということをしっかり提示して、早めに行っていくことが肝要だと思います。ただ、ゼロベースで検討して、毎年ゼロベースが続いた結果、マイナスシーリングになってしまうことは、お互いに良い結果にならないと思います。今後、施設の修繕や統廃合が出てくると思いますので、統廃合を含めた結論が早急に求められているということを感じました。

（小川会長）

時間がだいぶ押してきておりますので、最後に齊藤委員からまとめ的な発言をお願いします。

（齊藤職務代理者）

今朝の新聞を読んだかと思いますけれども、新井副知事が記者の質問に答えていましたが、「原点ゼロベース」と言っております。今、目標値の設定について村田委員がおっしゃっておりましたが、常に原点ゼロベースで目標数値を考えた方が良いということが企業ではよく言われております。そのようなことを参考にしていただけたらと思います。また、そのような時には問題意識を必ず持ちなさいということがあります。現状を否定して問題意識を持つことを、我々企業では行ってきました。次に、先ほど公共施設のメンテナンス問題や今後の統廃合の問題がございました。いろいろと検討されると思いますが、やはりいくつかの評価方法があると思います。例えば、何のための施設でどのくらいの施設があるのか、あるいはその活用状況はどうなのか、あるいはメンテナンスやランニングコスト等があります。このようなことは、例えば指標で言いますと、レーダーチャート等で評価すると、総合評価がしやすいと言う方もいます。少し蛇足かもしれませんが、私が感じたことを申し上げました。

（小川会長）

それでは、まだたくさん意見があろうかと思いますが、この後に重要な議題が控えておりますので、行政改革大綱についての議題は以上とさせていただきます。続きまして、議事の（２）「事務事業外部評価について」を議題とします。事務局から説明を求めます。

（事務局　小松企画課長）

資料２に基づき、【事務事業外部評価】について説明。

（小川会長）

今、事務局から説明がありましたけれども、委員の皆様方はこちらについて何か質問はございますか。

（小林保委員）

１つよろしいでしょうか。１２ページ「各部局対象事業」は先ほど説明があったように各部局で１つ選んで、総体的に話をする中で事業を選出されたと思いますが、なぜこの優先度があったのかというバックグラウンドを知りたいと思います。市長の思い入れもあると思うので、市長がこれだけは絶対にやりたいということや、例えば、出産支援事業については人口減を防ぐための事業であり、これだけはどうしてもやりたいという思惑があると思います。そういったものを入れていただければ分かりやすいと思う、という意見です。

（事務局　小松企画課長）
　ただいまの御意見ですが、今回の事業選定については、行政改革推進本部で決定させていただいたと先ほど説明させていただきました。事業の選定はいろいろな考え方がありまして、今回につきましては試行というかたちの中で、事業仕分けの選定方法を踏襲させていただいたという状況でございます。実を言いますと、昨年度は人口減少社会に備えて、特に定住促進計画を策定する関係上、それらに関連する事業の拾い出しをさせていただく中で、事業仕分けを行ったところでございます。ただ、今年度につきましては、特にそういった大きな柱があって、事業を選定したわけではございません。この事業の選定につきましては、今回はあくまで試行での実施でありますので、今後については委員の皆様を交えた中で、どういった方法で事業選定を行っていったら良いか検討をさせていただきたいと考えております。今回については、行政改革推進本部で選定した事業での試行実施でお願いしたいと思います。

（堀内委員）
　事務事業外部評価について、２日間実施するということですが、１日５名ずつということは、委員が５名ずつ出るということでしょうか。

（小川会長）
　委員の割り振りはどうなっておりますでしょうか。

（事務局　小松企画課長）
　委員の割り振りについては、この会議終了後に皆様の御都合を聞いた中で、事務局の方でお願いをするということになります。

（堀内委員）
　ということは、全員ということですか。

（事務局　小松企画課長）
　はい。

（小川会長）
　全員がどちらか一方に出るということのようです。

（堀内委員）
　２日あるのですが、もう１日は傍聴しなければならないでしょうか。

（小川会長）
　どちらか１日出席すればよろしいのでしょうか。それとも、評価しない日は傍聴した方がよろしいでしょうか。

（事務局　小松企画課長）
　委員の皆様方にはそれぞれ御都合があろうかと思いますので、基本的にどちらか１日出席していただくということでお願いしたいと思います。

（小川会長）
　それでは、ただいま説明があった内容で事業を開催したいと思いますので、御協力をお願いいたします。続きまして、議題（３）「その他」ですけれども、皆様より何かございますか。

（草野委員）
　小学校が合併して、放課後児童クラブが空いておりますが、そういった施設がどうなるのか次回で構いませんので教えていただきたいと思います。また、甲陽病院ですが、数字的には表れてこないかもしれませんが、エントランスに昔からブルーシートがかけてあったり、「緑化推進機構でこの苗を植えました」という看板があるが何も植わっていない状態だったのですが、この間行ったら綺麗になっており、これは１つ前進したなと思いました。甲陽病院はそれなりに頑張っていて、この前も病院でお祭りを行ったと思います。そのようにみんな頑張っているので、数字的には悪いですが、職員もドクターもいろいろな面で地域の人と一緒に頑張っているということを気がつきました。悪いことばかりではなく、良いこともあります。

（小川会長）
　ありがとうございます。それでは、「その他」でなければ議事を終了いたします。事務局へお返しいたします。

（事務局　菊原企画部長）
　はい。ありがとうございました。長時間にわたりまして、熱心に御議論、または御協議いただきまして、誠にありがとうございました。各委員方から頂きました御意見、御指摘等につきましては、齊藤職務代理者からもお話がありましたように原点に立ち返って、さらに問題意識を持って、今後の事務執行の際に積極的に活用していきたいと考えております。それでは、齊藤職務代理者から閉会の言葉をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

（齊藤職務代理者）

委員の皆様方、大変貴重な御意見、御提言、ありがとうございました。職員の皆さんはぜひこの御意見を無駄にしないように参考にしていただければ幸いと思います。非常に多忙、あるいは寒冷変化によって、日常業務が大変なことと思います。こういった中で行革を進め、２６年度の成果報告、また今後の見通しを聞きまして、私、北杜市の一市民として本当に心強く感じました。心から感謝したいと思います。この行政改革推進委員会の中で、「こんな考え方や手法があるよ」「こんな施策がある」とお話したかったのですが、こういった混沌とした問題が解決していくためには効率的な手段だと私は考えております。これからの市行政は非常に厳しいことは、火を見るより明らかであります。行革が進むことによって、目標どおりの市になっていくと思います。大変ではありますが、ぜひともこの第３次アクションプランが最後まで貫通するように御努力いただければありがたいと思います。長時間にわたりまして、第１回行政改革推進委員会、御苦労様でした。以上をもって、閉会いたします。

（事務局　菊原企画部長）

はい。ありがとうございました。それでは以上で本日の会議がすべて終了ということになります。最後に挨拶を交わしたいと思います。相互に礼。ありがとうございました。

以上、平成２７年度第１回北杜市行政改革推進委員会の内容を記載し、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署名委員　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

署名委員　＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿